

市町村のまちづくり

～地域主体の歩きたくなるまちなかづくりに向けて～

日立駅周辺地区における官民連携のまちづくり

日立市都市建設部都市政策課 主事補 澤 畠 健 人

背景

日立市は、茨城県の北東部にある人口約16.2万人の都市で、日立製作所の創業の地として、鉱業、電気、機械産業を中心に工業が発展してきた企業城下町です。

市の中心市街地である日立駅周辺地区は、平成の初めに駅前の企業跡地等を活用した市街地再開発事業により、商業・文化・情報・業務が集積する都市拠点として整備されました。しかし、約30年間賑わいづくりの中心的存在だった大型商業店舗が、人口減少や新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、令和4年に閉店となりました。

他の地方都市と同様、駅前の商店街の衰退が進んでいる中、大型商業店舗の撤退により中心市街地の賑わいが喪失するのを危惧し、市はこの商業施設の土地・建物を取得して、令和5年に新たな商業施設「ヒタチエ」としてリニューアルオープンさせました。このヒタチエのオープンを契機に、日立駅や複合文化施設シビックセンターなどの核となる施設と、それらをつなぐ道路や公園、広場といった公共空間を活用した「居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり」を進めています。



ヒタチエの外観

まちづくりアドバイザー派遣制度の活用

日立市では、令和4年度から「まちづくりアドバイザー派遣制度」を活用し、まちづくり専門家からまちづくりの考え方や方向性について助言を受けながら、活動を行ってきました。

令和4年度は、庁内関係部署の職員が集まり、他市のまちづくりの事例等を参考にしながら、官民が連携し、それぞれの強みを活かす新しいまちの魅力づくりについての勉強会を実施しました。

令和5年度からは、ヒタチエの管理会社・店舗、商店会、大学、行政関係者など多様なまちづくり人材が集まり、継続的なまちの賑わいづくりを検討するため、「日立駅周辺地区まちづくり会議」を開催してきました。

会議は、まちづくりに興味のある方なら誰でも参加できるオープンな場となるようにしたいと思い、参加者からの紹介や、人と情報が集まるカフェなどに通っ

て、多様な人材に声掛けすることでメンバーを増やしていきました。

3回開催した会議では、「子育て世代」をターゲットに、まずは小さいことから実践してみることをメンバーと共有し、ヒタチエ周辺でのワークショップを企画しました。



日立市内のカフェを利用した意見交換の様子

日立駅前歩きたくなるまちづくりワークショップ

○日時：令和6年2月23日(金)

○場所：ヒタチエ、ヒタチエ前の歩行者専用道路

○内容：①パーソナルモビリティ走行体験会

②ブロックで日立のまちをつくろう

③お菓子のリュックづくり

当日はあいにく雪・雨が降ったため、一部の内容を建物内に移しての実施となりましたが、子ども連れの家族を中心に約400人の参加がありました。ブロックのまちづくりやお菓子のリュックづくりは、子ども達に大盛況で、3時間のみのイベントでしたが、準備していた100組分のお菓子はなくなってしまいました。準備期間が短かったものの、メンバーが力を合わせて

まちの賑わい・交流づくりイベントを成功させたことで、地域が主体となってまちづくりを進める、大きな一歩を踏み出すことができました。



ブロックで日立のまちをつくる様子



まちづくりメンバーでの集合写真

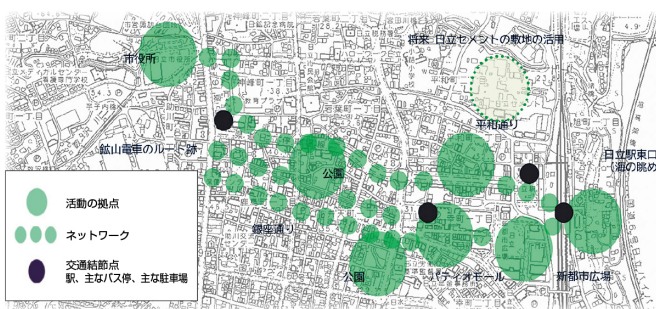
■ワークショップ以降の活動

令和6年4月には、ワークショップの振り返りとして、課題や感想を話し合いました。

ヒタチエのオープンにより、日立駅周辺の賑わいが戻りつつあることを実感するとともに、コストや手間をかけずに使いたい人が、自由に使うことのできる場所があると良いといったアイデアの提案や、まちづくりのビジョンの必要性について確認しました。

7月から11月にかけては、まちづくりメンバーが考えるまちの望ましい姿や活動内容について意見交換を行いました。その中では、「他市町村にはない日立らしい取組」や「若者や家族が集まる目的地の創出」など、多岐に渡る意見がありました。議論を重ねた結果、日立駅前で求められている要素を把握するため、まちづくりイベントを開催することとしました。

また、これまでに挙がった課題やアイデア、意見等を整理し、今後のまちづくりのビジョンを作成するため、人が集まる施設や公園、空き地等から活動の拠点となる候補地を選び、それらをつなぐネットワークを設定しました。



活動の拠点となる候補地を結んだネットワーク

範囲としては、まちの出発点となる日立駅から日立市役所までとし、その間にはヒタチエがあります。

その中で、まちづくりメンバーが新たに着目したのは、水の広場でした。現在、水の広場はあまり活用されておらず、新た



水の広場

な滞在空間を創出する活動の拠点にできないかという提案があり、ビジョンにつながる活動として、水の広場などを活用したまちづくりイベントを企画しました。

■ひたち次世代モビリティフェス

○日時 令和6年12月7日(土)・8日(日)

○場所 ヒタチエ、ヒタチエ前の歩行者専用道路
新都市広場、水の広場

○内容 ①スタンプラリー ②まちなか芝生広場
③お菓子リュックづくり ④ボードゲーム
⑤ブロックでモビリティづくり

イベントは、次世代モビリティの実証実験と併せて開催したこともあり、来場者数は約2,000人にも及びました。これまでほとんど利用されることがなかった水の広場では、②まちなか芝生広場として、人工芝にテーブルやイスを並べた屋外休憩スペースや子ども向けの移動式遊び場に加え、明治41年から昭和35年に日立市内を走行していた鉱山電車を再現し、乗車体験させるなど様々な取組みを実施したことから、イベントの両日ともに、子ども連れの家族を中心とした滞在空間を創出することができました。

来場者からは、日立駅周辺に「子ども」や「家族」でもっと遊べる場所が欲しい、定期的にこのようなイベントを開催して欲しいという声が多く寄せられ、日立駅前で求められている要素を確認することができました。

まちづくりメンバーも、子ども達と一緒に遊んだり、アンケート調査への誘導、受付・案内などそれぞれが役割をもってイベントに参加することで、地域主体のまちづくりが進んでいることを実感しました。



まちなか芝生広場の様子

■今後の展開

日立駅周辺地区の官民連携のまちづくりは、これまでのまちづくり会議や、イベントなどから得られた成功体験を基に、着実に前進してきました。今後は、日立駅周辺の将来像である未来ビジョンの作成や、官民の多様な人材が集まるエリアプラットフォームを構築していきたいと考えています。